

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100846		
法人名	(有)ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成24年1月	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100846&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、個人が安心と尊厳のある生活を保障され、主体的な決定を行なえるような分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の緑豊かな住宅地に建つ、2階建て2ユニットの事業所で、隣には散歩に最適な大きな公園がある。ユニット内は広くゆったりと造られており、廊下は歩行運動にも効果を上げています。収納付きの居室は、清掃も行き届き清潔で、全館床暖房になっている。利用者の町内会行事の参加や、事業所の「かるがも祭り」や防災訓練には近隣住民が参加し交流しており、小学生や高校生の訪問もある。また定期的に開催している運営推進会議では、地域との交流や防災計画・行事予定と報告等が話し合われ、業務の充実を図っている。管理者及び職員は、個々にきめ細かな介護をし、信頼関係と馴染みの関係の中で、共に過ごす日々を大切にしている。利用者の経験や知識が発揮できるように、遠出の外出や行事の準備・参加を支援しており、家族に毎月発送している機関紙「かるがもだより」には、担当職員自筆の近況報告と共に最近の利用者の写真が添えられており、家族の安心感につながっている。今後も質の高いケアの実践と共に、今以上に地域住民から支援されるホームであるよう期待したい。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中には、地域交流する事を目的とした内容が盛り込まれている。	地域密着型サービスの意義を理解し、法人の理念と事業所独自の介護理念を、掲示している。理念はカードにして携帯しており、毎朝の申し送りでも唱和し確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に施設のご理解を頂くために、町内会の会議や町内会行事へは積極的に参加をしており、利用者と職員と一緒に地域住民の皆様と交流をしている。	町内会行事の夏祭り・盆踊り・清掃活動に参加している。事業所主催の『かろがまつり』には、近隣住民250名が参加し交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今、現在行っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーより色々な意見等を頂きホームの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、利用者・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員等が参加し、災害対策や行事報告等が話し合われ、サービスの質の向上に活かされている。	多方面から広く意見を伺う意味でも、代表者や職員の参加を期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席し連携を図っている。又、意見交換等気軽に出来る状態にある。	区や市の担当者とは、事業所の取り組み状況や疑問点を話し合える関係を築いている。管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアとして、見守りを中心として自由に動いて頂いている。但し、危険が伴う行動が発生した場合は、声掛けをして危険の回避をしている。	夜間以外、玄関は施錠せず鍵をかけない暮らしを実践している。職員は利用者の様子をさりげなく見守り、安全面に配慮しながら、拘束のない自由な生活をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・精神的虐待については早期発見に努め、又、行なわないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護利用者が居る為、手続きなどの理解はしている。又、社会福祉協議会等と協力し後見人制度の内容も理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られた時から説明させて頂き、契約時には特に何度も説明し、ご家族からの質問・疑問の確認をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者も必ず参加し、外部への意見を提示出来る場を提供している。	家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時の会話の中から出た意見要望を、個人記録に記入しており、家族の声を介護やケアに反映するよう取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体の意見は、月に1回の会議にて、又ユニットごとの会議もあり意見交換している。又、その都度スタッフの声に耳を傾け反映させている。	職員参加の会議は月1度あり、意見や提案を聞く機会がある。また申し送りや日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体の意見は、月に1回の会議にて、又ユニットごとの会議もあり意見交換している。又、その都度スタッフの声に耳を傾け反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については随時参加出来るよう調整している。又、スタッフのレベルにより研修内容の調整も行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議などにて、管理者間での情報交換やネットワーク作りを行っており、又、その研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りが困難な場合を除き、本人の意向等を聞き入居時には不安が少なくなるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事などを聞き、少しでも不安を取り除いてから入居していただくよう心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時には、他医療・福祉関係職が既に見極め勧められて来ている事が多い為他のサービスを勧める機会は少ないが、相談にはその時の不安に思っている事を解消出来るよう説明している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来そうな時は食事準備等お手伝いして頂き楽しく過ごせる様に心掛けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には封書や面会時ご本人の状況等もお伝えし、又ご家族の状況なども聞き入れ話し合い等はしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中に、家族の名前・生活していた環境・昔の思い出等本人より聞ける機会を多く設けている。	初詣・鏡開き・節分等、昔からの行事を大切にしている。家族を含め親族の訪問もあり、継続的な交流ができるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の表情等を観察し必要な時はスタッフが間に入ったりし入居者同士が交流を図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全員ではないが、継続的な関わりを持っている家族もいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活様式や考え方も全て異なっているため、スタッフは各個人の考え方や希望を常に把握し、又日々変化する思いも敏感に捉え、スタッフ同士で情報交換等連携を図っている。	家族から得た情報や、日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや暮らし方の希望を聞き業務日誌に記入し、職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとり理解するために、入居された時の記録等に目を通したり、本人に昔の思い出や今までの生活状況などをお聞きしている。又、家族が面会に来られた際に、話を聞くように心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌、利用者の個人ごとの記録の作成や綿密な引継ぎにより、全職員が生活状況・精神状況・活動状況等情報を共有化し利用者の現状を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度カンファレンスを実施し、関係者がそれぞれの立場から本人の生活状況、身体状況等を確認し現状に合わせた適切な対応を図るための話し合いをし介護計画に反映している。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師、看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌の記載により、職員間で各個人の情報を共有し状況に合わせた対応を確認・実行並びに介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望・希望を聞き病院・デイサービス・居宅介護支援事業所などに相談し本人や家族にとって良い環境になるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア来訪にて交流を深め、又、運営推進会議にて民生委員の方が参加されており支援できる状況にある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の係り付け病院に受診することも可能である。 馴染みのホームドクターにて継続的に支援をしている。	訪問看護師による健康管理や協力病院医師の訪問診療等、医師・看護師とは24時間連絡がつく。またそれぞれの病状に合わせた医療機関を、受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、入居者の健康状態の把握をしていると共に、スタッフや入居者により気軽に相談できる状況にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的な入院も想定し常に薬の情報や診療情報提供書は常備している。又、入院時には入院前の状況を出来るだけ伝えられるよう病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時説明し、又重度化した場合は早めに話し合い変化があればその都度話し合いを行なっている。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明している。医師や看護師の助言を受けながら、家族の意向や対話を重ねチームとして取り組むことにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、応急手当の研修は行なっている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練など、2か月に1回行い、地域の消防施設とも連携を取るようになっている。	2ヶ月に一度、地域の消防団や近隣住民参加で防災訓練を実施している。全職員が熟知できるように、自動通報装置の対応確認・机上訓練・シュミレーションを繰り返し行っている。	万が一の災害時にそなえ、飲料水・食品・下着・衛生用品・応急手当品等の備蓄品を、運営推進会議や全体会議で、検討することを期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に各個人の尊厳を重視し、名前を呼ぶ時は「さん」付けで呼んでいる。又、会話中もプライバシーを損ねる様な発言はしていない。	利用者のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つける事がないよう、周囲に配慮しながら支援している。個人情報に関する書類は、適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者の表情・言動・行動に注意を払い、常に声かけをしながら本人の意志を引き出すように心掛けている。又、職員が一方向的に誘導するのではなく、生活している中で本人に選択肢を与える機会を多く取り入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調や生活ペースは異なるため随時本人に確認をしながら生活をしていただいている。又、日常生活において、レクリエーションやお散歩などの声掛けをしており、本人の希望が選択できるような暮らしのお手伝いをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面時には、身だしなみとして洗顔後の整髪や髭剃り、衣類の選択について声掛けをしたり、訪問理美容の活用については本人や家族と連絡調整をし活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する共同作業は、全員が対象と考えており、その日の入居者の体調や状況に合わせて、分担しお手伝いをして頂いている。	一人ひとりの力に応じて、職員と共に食事の準備、後片付けを行なっている。職員と共に食卓を囲み、談笑しながら和やかに食事をしており、食事が1日の楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好については、本人並びに家族の協力を得ながら好きな食べ物や飲み物を自由に召し上がられている。又、施設から提供するおやつや飲み物についても入居者さんに選択肢を与え召し上がっていただけるよう配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる方は歯磨きをして頂き、義歯の方でうがいも難しい方は本人の拒否が無い限り、毎食後ガーゼを使用し口腔ケアを実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が難しい入居者には、24時間排泄チェックをしており、紙オムツの利用を極力しないようにする事と、自らの意志による排泄をしていただくために、各自のパターンを理解しながら声かけをするなどし、スムーズな排便を促している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周囲の人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。4ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便・体調の確認をし乳製品や腹部マッサージ等必要に応じ対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはいつでも利用できる体制にあり、本人の希望時間等を確認し入浴して頂いている。	利用者の希望に合わせて、何時でも入りたい時に入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者には、声かけや好みの入浴剤を使うなど工夫をしながら支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息をするためには、静かな環境が必要のため、リビングのテレビの音量は大きくなりすぎないように、入居者にご理解とご協力をしていただき、小さめに設定させていただいている。又、スタッフの訪室により環境を確認し病気や事故防止に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個別の服薬情報を完備し、職員は随時情報を入手している。又、体調の変化により服薬が変更になった場合は、申し送りはもちろんの事、連絡ノート・業務日誌にも記載し変更の確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんには生きがいや喜びのある生活をしていただくために、食事の準備や掃除等をお手伝いして頂き、今までの生活の延長として、スタッフと共に参加して頂いている。お天気の良い日には、お散歩やベランダで日光浴などをされ楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の意志に添える様になっている。又、スタッフ側からお誘いし戸外に出かける支援をしている。	隣に大きな公園があり、日常的に散歩に出掛けている。前庭にはイスやテーブルがあり、日光浴やティータイムに利用している。自然に屋外へ出掛けられるように、外出計画が年間行事の中に多数盛り込まれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には金銭管理をお任せしている。又、管理については、現金出納帳の記載、領収書等の関係書類を毎度精査し家族に報告している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や家族のお手紙の発送については、施設も援助しながら自由にやり取りをされている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節を感じて頂く為に、季節に応じた切り絵などにて飾り付けをしたり、クリスマスやお正月等には飾り物をして雰囲気を感じて頂いている。又、就寝前には、良眠して頂ける様に物音はなるべく立てず、カーテン等により光が漏れないよう配慮している。	玄関・居間・キッチン・浴室・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。2階ベランダや前庭にはイスやテーブルを置き、日光浴や暖かい日のティータイムに利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、昔自分の家にあった様な畳のある小上がりを用意したり、一人で座れるソファや複数の入居者同士で座れるソファを用意しており、自由に入居者さんが利用できる様に配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に有るものは全て本人と家族とで話し合いをし持参されており、限られたスペースの中で生活に支障が出ない程度に工夫し配置している。	居室には使い慣れた家具や調度品が置かれ、家族写真や思い出の品が飾られ清掃もいき届き、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活を送っていただくために、安全な環境作りの一環として施設内をバリアフリーで統一し浴室・トイレはもろんの事、廊下やリビングには手摺りを設置し安全に生活して頂ける様に工夫している。		